2020年度　総合人間科学部・総合人間科学研究科共催FD　議事録

開催日時：2020年12月16日（水）　午後4時30分～午後5時25分
開催場所：Zoomオンライン開催

1. 趣旨説明

研究科委員長より、今回の共催FD「外国人留学生に対する支援体制の現状と展望」の趣旨説明があり、外国人留学生に対する支援等に関して各学科・専攻で感じている困難や実践例について情報を持ち寄り、よりよい支援体制構築のための展望を議論することが述べられた。

2. 外国人留学生に対する支援体制の現状と展望に関する報告

各学科・専攻より、それぞれの現状と展望について配付資料に基づき説明がなされた。

(1) 看護学科・看護学専攻

2019年度から看護学科ではCOILプログラムを導入しており、①米国人看護教員によるグローバルヘルス関連科目の講義の受講、②米国、モンゴル、日本の看護学生のプレゼンテーションとディスカッション、③カリフォルニア大学ロサンジェルス校の通常授業の聴講、④The 5th International Online Conference on Nursing and Midwiferyへの参加の例が紹介され、実施上の課題と今後の取り組みに関する質疑応答が行われた。

(2) 教育学科・教育学専攻

大学院日本語修学における留学生が論文を執筆する際に必要となる日本語指導体制に関する要望、大学院から当該専門分野を学び始めた学生が学部学科の授業を受講する場合の単位認定に関する要望が論じられた。SPSF・大学院英語修学については、学内の情報が日本語のみのものが多いことによる困難の例が述べられた。会議体における多言語使用、様々な申請書や規則等のバイリンガル対応、教職員の

交流と情報交換を活発にすることによる教育研究環境の整備、留学生の視点に立ったサービスを設計・提供する必要性等が指摘された。

(3) 心理学科・心理学専攻

日本語が比較的堪能な学生が入学している傾向はあるものの、臨床実践の場面のように高い日本語力が要求される場合に留学生に対するサポートが必要となる局面があり、該当の院生に対する支援として現状では助教およびPDによる丁寧な対応が重要な位置を占めていることが紹介された。留学生が孤立しないための工夫と対応の必要性、留学生が日本での試験を受験する場合や就職を希望する場合の困難について論じられた。

(4) 社会学科・社会学専攻

留学生への日本語支援について、学術的な日本語能力のシステマティックな育成体制の確立、論文指導チューターや院生同志のマッチングによる個別対応の制度化などが提案された。行政文書の英語化の点で、全学レベルにおけるタイムラグの問題と、学部学科レベルにおける多言語化の遅れが指摘された。学生へのメンタルサポートに関しては、カウンセリングセンターで複数言語化がなされていることが情報共有されるとともに、学生間交流の不足、留学生が日本で就職する際の情報提供の必要性、4月入学者と9月入学者との交流に関する展望などが提案された。

(5) 社会福祉学科・社会福祉学専攻

知的財産・所有権に関する意識を高めるための教育例が紹介され、大学院生の研究倫理プログラムや誓約書提出だけでは限界があると指摘された。また、留学生に対する日本語指導について指導教員の負担が大きい現状に鑑み、教育アシスタントのような制度・TA制度の充実が要望された。経済的問題が学業（実習への参加など）の支障になっている場合があること、学部・大学院において実施している英語の授業は英語で学ぶという学術上の意義だけでなく母語ではない言葉で授業に参加する留学生の不自由さを日本人学生が身をもって知るという良い機会であることが論じられた。

3. 総括

各学科・専攻からの報告および質疑応答を受け、学部長より今回のFD活動の総括が述べられた。さまざまな観点から今回挙げられた問題に対応していくことの重要性とともに、今年のコロナ状況にあったからこそ顕在化しないままになっている問題も留学生への必要な対応として存在しうることが指摘された。

以　上